

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	九州財務局長
【提出日】	2021年2月12日
【四半期会計期間】	第23期第1四半期（自 2020年10月1日 至 2020年12月31日）
【会社名】	株式会社cotta （旧会社名 株式会社タイセイ）
【英訳名】	cotta CO.,LTD （旧英訳名 TAISEI CO.,LTD）
【代表者の役職氏名】	代表取締役会長 佐藤 成一
【本店の所在の場所】	大分県津久見市大字上青江4478番地8
【電話番号】	(0972)85-0117
【事務連絡者氏名】	取締役経理部長 野村 弘
【最寄りの連絡場所】	大分県津久見市大字上青江4478番地8
【電話番号】	(0972)85-0117
【事務連絡者氏名】	取締役経理部長 野村 弘
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号） 証券会員制法人福岡証券取引所 （福岡市中央区天神二丁目14番2号）

（注）2019年12月21日開催の第21期定時株主総会の決議により、2020年3月1日から会社名を上記のとおり変更いたしました。

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第22期 第1四半期連結 累計期間	第23期 第1四半期連結 累計期間	第22期
会計期間	自 2019年10月1日 至 2019年12月31日	自 2020年10月1日 至 2020年12月31日	自 2019年10月1日 至 2020年9月30日
売上高 (千円)	1,870,148	2,589,609	7,860,026
経常利益 (千円)	87,887	214,323	320,538
親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益 (千円)	63,326	147,657	263,312
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	63,326	147,657	263,312
純資産額 (千円)	2,740,470	3,052,137	2,942,882
総資産額 (千円)	4,546,937	5,526,498	5,498,805
1株当たり四半期(当期)純利益 (円)	5.83	13.51	24.21
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益 (円)	5.78	13.39	23.97
自己資本比率 (%)	60.0	55.1	53.3

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

3. 当社は、「株式給付信託(J-E S O P)」および「株式給付信託(B B T)」を導入しており、当該信託が保有する当社株式を(四半期)連結財務諸表において自己株式として表示しております。そのため、当該信託が保有する当社株式は、1株当たり四半期(当期)純利益の算定上、期中平均株式数の計算において控除する自己株式数に含めております。

2【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社グループ(当社および当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。なお、当社の連結子会社でありました株式会社つく実やにつきましては、2020年12月17日付で清算終了いたしました。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

(1) 財政状態および経営成績の状況

経営成績

当第1四半期連結累計期間（以下「当四半期」という。）におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症拡大防止と経済活動の再生の両建てに向けた政策等による一時的な効果が見られたものの、冬季に再び新型コロナウイルス感染症が拡大傾向に転じ、首都圏のみならず、各地方においても猛威を振るい、依然として厳しい状況が続きました。

そのような状況のなか、当四半期における当社グループの主要事業である菓子・パン資材および雑貨等の販売事業（以下「資材および雑貨等の販売事業」という。）につきましては、中期経営計画に基づき大規模な広告宣伝費をテレビコマーシャルやデジタルマーケティングなどに定量的に投下いたしました。その結果、当社の認知度は格段と上昇し、当四半期における新規顧客数が19万件を記録いたしました。この件数は前年同四半期の5倍を超えるものであります。

前連結会計年度は巣ごもり特需の恩恵を受けましたものの、当四半期におきましては、10月以降、Go Toキャンペーン等により人の動きが活発化するようになり、特段、巣ごもり特需の影響を大きく受けていないにもかかわらず、業績を伸ばすことができました。これは、当社の潜在的ポテンシャルが上昇したことによるものと判断しております。また好調な新規顧客開拓を背景にクリスマス商戦等の各種イベントも好調に推移しました。

以上の結果、売上高2,589,609千円（前年同四半期比38.5%増）、営業利益210,821千円（同146.7%増）、経常利益214,323千円（同143.9%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益147,657千円（同133.2%増）となりました。

なお、当社グループは、資材および雑貨等の販売事業を主要な事業としており、他の事業セグメントの重要性が乏しいため、セグメント情報の記載を省略しております。

財政状態

（資産）

当第1四半期連結会計期間末における総資産は、5,526,498千円となり、前連結会計年度末に比べ27,692千円増加しました。これは、主に、法人税等の納税および未払金の支払を行ったことに伴い現金及び預金が減少した一方で、クリスマス向け売上の増加に伴い受取手形及び売掛金が増加したこと、ならびに売上高の増加に伴いたな卸資産が増加したことによるものであります。

（負債）

当第1四半期連結会計期間末における負債合計は、2,474,361千円となり、前連結会計年度末と比べ81,561千円減少しました。これは、主に、売上高の増加に伴う仕入高の増加により、支払手形及び買掛金が増加した一方で、2020年9月に実施したテレビコマーシャル費用の支払により未払金が減少したこと、ならびに法人税等の納税により未払法人税等が減少したことによるものであります。

（純資産）

当第1四半期連結会計期間末における純資産は、3,052,137千円となり、前連結会計年度末と比べ109,254千円増加しました。これは、主に、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上により、利益剰余金が増加したことによるものであります。

(2) 会計上の見積りおよび当該見積りに用いた仮定

当第1四半期連結累計期間において、前事業年度の有価証券報告書に記載した「経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析」中の会計上の見積りおよび当該見積りに用いた仮定の記載について重要な変更はありません。

(3) 経営方針・経営戦略等

当第1四半期連結累計期間において、当社グループが定めている経営方針・経営戦略等について重要な変更はありません。

(4) 優先的に対処すべき事業上および財務上の課題

当第1四半期連結累計期間において、当社グループが優先的に対処すべき事業上および財務上の課題について重要な変更および新たに生じた課題はありません。

(5) 研究開発活動

該当事項はありません。

(6) 経営成績に重要な影響を与える要因

当第1四半期連結累計期間において、当社グループの経営成績に重要な影響を与える要因に重要な変更はありません。

(7) 資本の財源および資金の流動性についての分析

当第1四半期連結累計期間において、資本の財源および資金の流動性について重要な変更はありません。

当第1四半期連結会計期間の末日現在において重要な資本的支出の予定はありません。

なお、当第1四半期連結会計期間末における借入金およびリース債務を含む有利子負債の残高は1,259,977千円となっております。また、当第1四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物の残高は1,719,620千円となっております。

3 【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定または締結等はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	21,600,000
計	21,600,000

【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間末現在発行数(株) (2020年12月31日)	提出日現在発行数(株) (2021年2月12日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	11,106,513	11,106,513	東京証券取引所 (マザーズ) 福岡証券取引所 (Q-Board)	単元株式数 100株
計	11,106,513	11,106,513	-	-

(2)【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増 減額(千円)	資本準備金残 高(千円)
2020年10月1日～ 2020年12月31日 (注)	27,000	11,106,513	3,978	647,881	3,978	607,240

(注) 新株予約権の行使による増加であります。

(5)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(6) 【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日(2020年9月30日)に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

2020年12月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 500	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 11,077,300	110,773	-
単元未満株式	普通株式 1,713	-	-
発行済株式総数	11,079,513	-	-
総株主の議決権	-	110,773	-

- (注) 1. 「株式給付信託(J-E S O P)」および「株式給付信託(B B T)」制度の信託財産として、株式会社日本カストディ銀行(信託E口)が保有している当社株式は、連結財務諸表において自己株式として表示しており、その株式数は168,600株(議決権の数1,686個)であります。
2. 「完全議決権株式(その他)」の欄には、証券保管振替機構名義の株式が、600株(議決権の数6個)含まれております。
3. 「単元未満株式」欄には、当社所有の自己株式26株が含まれております。

【自己株式等】

2020年12月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
株式会社 c o t t a	大分県津久見市大字上青江4478番地8	500	-	500	0.00
計	-	500	-	500	0.00

- (注) 1. 「株式給付信託(J-E S O P)」および「株式給付信託(B B T)」制度の信託財産として、株式会社日本カストディ銀行(信託E口)が保有している当社株式は、連結財務諸表において自己株式として表示しており、その株式数は168,600株であります。
2. 上記のほか、自己名義所有の単元未満株式26株を保有しております。

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（2007年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間（2020年10月1日から2020年12月31日まで）および第1四半期連結累計期間（2020年10月1日から2020年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について、太陽有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2020年9月30日)	当第1四半期連結会計期間 (2020年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,976,912	1,859,628
受取手形及び売掛金	356,134	431,159
たな卸資産	1,311,685	1,375,926
その他	207,114	254,445
貸倒引当金	5,159	6,369
流動資産合計	3,846,688	3,914,790
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	772,771	763,608
土地	392,744	392,744
その他(純額)	222,345	214,792
有形固定資産合計	1,387,861	1,371,145
無形固定資産	85,884	83,806
投資その他の資産	178,371	156,756
固定資産合計	1,652,117	1,611,708
資産合計	5,498,805	5,526,498
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	567,687	734,549
短期借入金	70,000	70,000
1年内返済予定の長期借入金	362,081	354,158
未払法人税等	94,314	51,947
賞与引当金	34,369	7,268
ポイント引当金	17,720	20,359
その他	531,922	396,540
流動負債合計	1,678,094	1,634,823
固定負債		
長期借入金	812,928	778,800
株式給付引当金	13,432	13,432
退職給付に係る負債	6,371	6,589
その他	45,096	40,715
固定負債合計	877,828	839,537
負債合計	2,555,923	2,474,361
純資産の部		
株主資本		
資本金	643,903	647,881
資本剰余金	617,071	621,049
利益剰余金	1,699,242	1,802,583
自己株式	28,229	28,229
株主資本合計	2,931,986	3,043,284
新株予約権	10,896	8,853
純資産合計	2,942,882	3,052,137
負債純資産合計	5,498,805	5,526,498

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2019年10月1日 至 2019年12月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2020年10月1日 至 2020年12月31日)
売上高	1,870,148	2,589,609
売上原価	1,170,242	1,531,972
売上総利益	699,905	1,057,636
販売費及び一般管理費	614,461	846,814
営業利益	85,444	210,821
営業外収益		
受取利息	19	2
協賛金収入	2,959	3,351
電力販売収益	1,086	2,131
その他	1,301	1,188
営業外収益合計	5,368	6,674
営業外費用		
支払利息	1,998	2,142
電力販売費用	920	819
その他	6	210
営業外費用合計	2,924	3,172
経常利益	87,887	214,323
特別利益		
投資有価証券売却益	2,000	-
受取保険金	-	1,623
特別利益合計	2,000	1,623
税金等調整前四半期純利益	89,887	215,946
法人税、住民税及び事業税	24,395	49,246
法人税等調整額	2,166	19,042
法人税等合計	26,561	68,288
四半期純利益	63,326	147,657
非支配株主に帰属する四半期純利益	-	-
親会社株主に帰属する四半期純利益	63,326	147,657

【四半期連結包括利益計算書】
【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2019年10月1日 至 2019年12月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2020年10月1日 至 2020年12月31日)
四半期純利益	63,326	147,657
四半期包括利益	63,326	147,657
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	63,326	147,657
非支配株主に係る四半期包括利益	-	-

【注記事項】

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

(連結の範囲の重要な変更)

当第1四半期連結会計期間において、株式会社つく実やは清算終了したため、連結の範囲から除外しております。

(追加情報)

(新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響に関する会計上の見積り)

前連結会計年度の有価証券報告書の(追加情報)に記載した「2.新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響に関する会計上の見積り」についての重要な変更はありません。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)およびのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 2019年10月1日 至 2019年12月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2020年10月1日 至 2020年12月31日)
減価償却費	27,537千円	32,069千円
のれんの償却額	11	11

(株主資本等関係)

前第1四半期連結累計期間(自 2019年10月1日 至 2019年12月31日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2019年11月22日 取締役会	普通株式	44,148	4.0	2019年9月30日	2019年12月23日	利益剰余金

(注) 配当金の総額には、株式給付信託が保有する当社株式に対する配当金691千円が含まれております。

当第1四半期連結累計期間(自 2020年10月1日 至 2020年12月31日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2020年11月27日 取締役会	普通株式	44,315	4.0	2020年9月30日	2020年12月28日	利益剰余金

(注) 配当金の総額には、株式給付信託が保有する当社株式に対する配当金674千円が含まれております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自 2019年10月1日 至 2019年12月31日)

当社グループは、菓子・パン資材および雑貨等の販売事業を主要な事業としており、他の事業セグメントの重要性が乏しいため、記載を省略しております。

当第1四半期連結累計期間(自 2020年10月1日 至 2020年12月31日)

当社グループは、菓子・パン資材および雑貨等の販売事業を主要な事業としており、他の事業セグメントの重要性が乏しいため、記載を省略しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益および算定上の基礎、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益および算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 2019年10月1日 至 2019年12月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2020年10月1日 至 2020年12月31日)
(1) 1株当たり四半期純利益	5円83銭	13円51銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益(千円)	63,326	147,657
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純利益(千円)	63,326	147,657
普通株式の期中平均株式数(株)	10,864,410	10,927,721
(2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益	5円78銭	13円39銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益調整額(千円)	-	-
普通株式増加数(株)	82,660	98,351
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要	-	-

(注) 株主資本において自己株式として計上されている株式給付信託制度における信託が保有する当社株式を、「1株当たり四半期純利益」および「潜在株式調整後1株当たり四半期純利益」の算定上、期中平均株式数の計算において控除する自己株式に含めております(前第1四半期連結累計期間172,619株、当第1四半期連結累計期間168,600株)。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

2020年11月27日開催の取締役会において、次のとおり剰余金の配当を行うことを決議いたしました。

(イ) 配当金の総額.....44,315千円

(ロ) 1株当たりの金額.....4円00銭

(ハ) 支払請求の効力発生日及び支払開始日.....2020年12月28日

(注) 2020年9月30日の最終の株主名簿に記録された株主または登録株式質権者に対し、支払いを行いました。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2021年2月10日

株式会社 c o t t a
取締役会 御中

太陽有限責任監査法人
九州事務所

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 陶 江 徹 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 沖 聡 印

監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社 c o t t a の2020年10月1日から2021年9月30日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間（2020年10月1日から2020年12月31日まで）及び第1四半期連結累計期間（2020年10月1日から2020年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社 c o t t a 及び連結子会社の2020年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

四半期連結財務諸表に対する経営者及び監査等委員会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査等委員会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。
- ・ 継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期連結財務諸表において、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人

の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。

- ・ 四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた四半期連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに四半期連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- ・ 四半期連結財務諸表に対する結論を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、四半期連結財務諸表の四半期レビューに関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査等委員会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査等委員会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2. X B R L データは四半期レビューの対象には含まれていません。